

4 世帯類型による差異

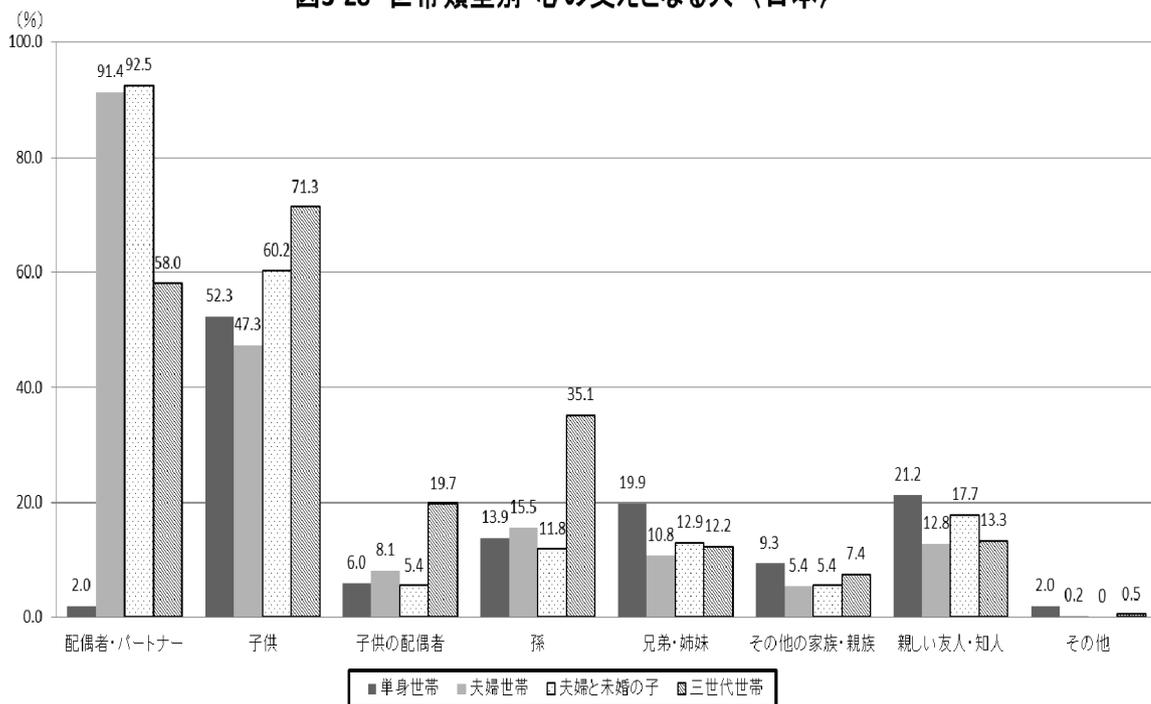
図3-28は、日本と韓国につき、世帯類型別に「心の支えとなる人」の 카테고리別の肯定率を示したものである。各世帯類型において最も高い比率を示すカテゴリーは、日韓に共通しており、単身世帯は「子供」（日本 52.3%、韓国 72.0%）、夫婦世帯は「配偶者あるいはパートナー」（日本 91.4%、韓国 92.3%）、夫婦と未婚の子の世帯では「配偶者あるいはパートナー」（日本 92.5%、韓国 91.4%）、三世代世帯では「子供」（日本 71.3%、韓国 72.6%）であった。両国とも、世帯類型の違いにかかわらず、配偶者と子供は多くの高齢者に「心の支え」として認識されている。ただし、日韓の比較で、夫婦世帯および夫婦と未婚の子の世帯において「配偶者」が、また三世代世帯で「子供」が挙げられる比率はほぼ似通っているものの、単身世帯で「子供」を挙げる人の比率は、日本より韓国のほうが20ポイント程度高くなっている。

また、とくに三世代世帯に注目すると、日本では、「子供」71.3%、「配偶者あるいはパートナー」58.0%、「孫」35.1%、「子供の配偶者」19.7%と、構成メンバーのすべてにわたり比較的高い比率を示すことが特徴的である。他方、韓国では、72.6%を示す「子供」以外のカテゴリーでは、「子供の配偶者」19.2%、「配偶者あるいはパートナー」37.7%、「孫」11.6%と、相対的に低い比率にとどまっていた。

日韓の単身世帯に注目すると、「子供」が最も高い比率を示す以外に、「親しい友人・知人」（日本 21.2%、韓国 9.5%）、「兄弟・姉妹」（日本 19.9%、韓国 4.7%）などが、他の世帯類型の場合よりわずかながら高い比率を示す点で共通する特徴を示していた。

全般的には、世帯類型と近親や友人などにより形成される社会的ネットワークとの間には、日韓に共通する傾向性が確認できた。

図3-28 世帯類型別・心の支えとなる人〈日本〉



〈韓国〉

